

平成 24 年 3 月 12 日

地域貢献活動支援報告書

社会連携研究センター長 殿

所 属 国際交流センター
氏 名 福岡 昌子

活動テーマ	「外国籍児童のための母語保持教室」中国語・ポルトガル教室・(スペイン語教室)
実施期間	平成 23 年 7 月 2 日 ~ 平成 24 年 2 月 18 日
活動内容	<p>(1) 活動実施内容 日本生まれや幼児期に来日した子供は、母語も第 2 言語もできない「ダブルリミテッド現象」が出現し、母語との相互関係が強い認知・学習能力の育成が妨げられる傾向にある。今年度も、下記の目的で「外国籍児童のための母語保持教室」を実施した。今年度はスペイン語母語保持教室も開催した。 目的：①ブラジル人学校、市役所、教育委員会と連携し、地域の多文化共生社会の構築に貢献する。②外国籍児童や保護者に母語保持の重要性を意識させ、アイデンティティの確立を支援する、③地域と協働して外国籍児童を育み、将来の国際的人材の育成を目指す。</p> <p>(2) 地域への貢献（地域の発展・活性化への寄与、広がり） 地域に在住する外国籍児童の母語保持やアイデンティティの確率を支援することで、国際的な人材育成の一助となるよう支援できた。教室の継続への要望も高く、参加者も増えてきている。また、外国籍児童の父兄同士による本事業への取組み意識も高く、支援協力者も増えている。今年度はスペイン語母語保持教室を実施することで、ペルー出身の外国籍生徒への母語による教科支援を行なうことができた。</p> <p>(3) 共同実施者との連携状況 継続事業 3 年目として、平成 23 年度も、ブラジル人学校、県立飯野高校とが連携を図り、本事業の発展に寄与することができた。今年度は、県立飯野高校と連携することによって、スペイン語母語保持教室を展開できた。</p> <p>大学の教育・研究成果のかかわり これまでの研究成果としては、「三重大学国際交流センター紀要」第 5 号に、福岡(2011)「外国籍児童のための母語保持教室の実践—日本と母国を結ぶ国際的人材の育成をめざして—」をまとめた。また、母語や日本語の教育についてのブラジル人学校の父兄を対象とした意識調査の分析や外国籍児童を対象とした教材の作成を引き続き実施しており、本事業における教育・研究成果のかかわりは大きい。今年度は、スペイン語母語保持教室を飯野高校で開催できたことも有意義であった。</p> <p>(4) 開催実績 ポルトガル語教室（於：「アポーヨミエ」）2011 年 7 月 16 日～10 月 29 日（15 名） 中国語教室（於：三重大学国際交流センター）2011 年 7 月 2 日～11 月 15 日（8 名） スペイン語教室（於：三重県立飯野高校）2011 年 11 月 5 日～2012 年 2 月 18 日（2 名）</p>